

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	270201635		
法人名	社会福祉法人島光会		
事業所名	グループホーム大森		
所在地 (電話番号)	〒036-1203 青森県弘前市大森字勝山278番地21 (電話) 0172-93-2003		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年3月12日	評価確定日	平成21年5月11日

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 4月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤	12人, 非常勤 0人, 常勤換算 12人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	3000 ~ 冬期5,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	71 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	梅村病院、梅村歯科クリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>市街から離れており静かな場所に立地されている。法人の保育所やサービスが隣接し、地域に根ざした安心できるホームである。「新しい家庭で生き生きとした生活をめざして…」という開設以来の基本理念を大切にしており、職員に浸透している。又利用者やその家族の要望等にも柔軟に対応し、生活の安定に努め、ほのぼのとした雰囲気の中で、利用者の笑顔が印象的なホームである。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価において取り組みが望まれていた点については、全職員で話し合いを持ち、改善課題に対し前向きな取り組み姿勢がみられる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者を中心に職員間で話し合わせ、評価の意義についてなど理解している。また、日々を振り返り、本人・家族の意向等を取り入れ、地域密着型サービスとして質の向上に努力している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>町の職員・ご家族・地域の方・民生委員などの参加を頂きホーム内の活動状況の報告をしながら、前回の外部評価の結果についても報告し、意見や情報を取り入れて運営やサービスの向上にむけて取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>契約時の説明から始まり、面会時やケアプランの説明時など家族との触れ合いの時間を大事にして意見や苦情、不安を吸い上げ、提起された貴重な意見を職員で話し合い運営に反映している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域交流は積極的に行い、保育園児の訪問等も受け入れるなど、地域と良い関係を築いている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「新しい家庭で生き生きとした生活をめざして…」という基本理念を掲げている。更に地域密着型サービスの意義を理解し、地域住民の一員として安心して生活していける事を理念の柱の一つとした。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を面会室・ホール等に掲示し、いつでも理念に触れられるような環境を作っていると共に、内部研修や日々のケアの中で理念を職員間で確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣に母体となる施設と保育園が併設されており、保育園児の訪問や地域行事の参加等行き来出来る関係を構築され、入居者の楽しみの一つになっている。また、運営推進会議の委員である町会長や家族の代表等を通して、認知症についての勉強会にも取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の結果等には全職員で話し合い、今後のケアにいかせる様に取り組み、実践している。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、近況報告・自己評価・外部評価結果等の報告をし、意見を出し合っている。また、会議で出された意見等は日頃のケアへとつなげている。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの便りを作成し毎回、市へ配布しており、自己・外部評価の結果も報告している。報告時には、意見交換等を行い連携を図っている。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	内部研修等で権利擁護等に関する、知識や理解を深めるように取り組んでいる。また、必要に応じて、家族や利用者に情報を提供している。		
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で対策委員会を設置し、マニュアルを作成している。虐待防止については、全職員が内部研修にて理解を深めると共に、虐待行為を発見した場合の対応方法についても周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、利用者や家族にケアや運営の方針等を十分に説明し、同意を得た上で契約をしている。また、退居時には退居先の情報提供を行っている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ホーム便りを送付する他、近況報告等もし、随時家族へ暮らしぶりなどを伝えている。又金銭については、出納帳に記録し、定期的に報告をしている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム内に意見箱を設置していると共に、面会時や便りを通して常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りを行っている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動がないようにしているが、退職など人が代わる場合は、利用者に報告し、家族へも面会時や便りを通して紹介している。また、職員間での引き継ぎを行い、スムーズに移行できるようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加後は、他の職員へ伝達し日々のケア向上へとつなげている。研修は年間計画を作成し、内部研修は月1回以上行っている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会へ加入し、必要な情報収集やサービスの質の向上に努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談から利用に至るまで、利用者・家族の視点や意向を重視し、対応している。ホームの見学や訪問等面談を重ねたり、法人のディサービスを利用したりしながら、安心できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が職員と一緒に喜び、楽しめるようなレクリエーションを計画するなど、日々の生活の中でお互いに支え合う関係が構築されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や行動、表情で利用者の意向や思いを推し測る他、家族の面会時に情報収集し、日々のケアに生かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時を利用し、思いや意見を聞き介護計画に反映させている。又職員で意見交換をし、カンファレンスを行い、介護計画の作成に活かしている。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回の見直しと共に、利用者の状態変化に伴い、家族や職員と話しあいを持ちながら、随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の事業所と連携をとり、協力体制がとられている。また、本人の希望や要望にも柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>個々の利用前の受診経過、希望を把握して希望する医療機関への受診支援を行っている。かかりつけ医は個々に違うが、急変時に対応できるよう医療機関と協力体制がとられている。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時、又その都度、重度化や終末期に伴う対応方針を家族と共に話しあい、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>内部研修等で、全職員が個人情報保護法について理解している。また、入居者の個人情報は目に付かない場所に保管している。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員は入居者の生活スタイルにあったケアを行うように心がけており、一人ひとりに柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事は職員も一緒にし、入居者との楽しい時間を共有している。また、準備等に入居者も加わることで入居者の楽しみを引き出している。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は週3回で、その他の日は手足浴等で対応している。また、入居者からの希望があれば柔軟に対応している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>行事は年間で計画している。農業経験のある入居者は、畑を耕し野菜を収穫したり、入居者に合わせてレクリエーションに参加してもらったりして、それぞれが役割や楽しみ事を見出せるよう支援している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>職員と一緒に、近くのコンビニへおやつ等を買いに出かけたり、遠出の際は本人の体調等に考慮し、事前の計画をもとに外出支援をしたりしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については定期的に内部研修等を行い、その重要性を全職員が理解している。また、本人の危険防止の為、やむを得ず拘束をしないといけない場合は、家族の同意を得ている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関等に施錠はされておらず、出入口には鈴を付けて対応し、また、無断外出には、地域住民や関係施設に協力を得て対応している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っている。ホーム自体には備蓄食料はないものの、法人全体では備蓄されており災害等に対応できる体制がある。また、近所のコンビニとも災害時等の協力体制がとられている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は毎回チェックし、入居者本人の状態に合わせて食事を提供している。また、法人内の栄養士の助言も得ている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防マニュアルは作成されており、発生時期等、感染症に対しての知識や情報を随時内部研修で全職員が共有し、予防対策に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールにはソファやテーブルといった家具があり、入居者のくつろげる場になっている。また、背もたれが高いソファを共有空間の仕切り代わりや目隠しに使うといった工夫もされている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には入居者の馴染みの物を置くなど、落ち着いた雰囲気がある。また、ベットは低床ベットを使用し、入居者の転落・事故防止軽減などの工夫もされている。</p>		

 は、重点項目。